

荒木直範(1894-1927)の体育ダンス教材分析

An analysis of the teaching materials of Gymnastic
Dance presented by Naonori Araki (1894-1927)

川上 志保 (島根大学)*

片岡 康子 (お茶の水女子大学)**

1. 本研究の目的

荒木直範(1894-1927)は大正後期から昭和前期にかけてダンス教育の研究と実践を行った人物である。彼は行進遊戯や唱歌遊戯を主な内容としていた日本のダンス教育の中に、新たに欧米から体育ダンスの理念と教材を移入したひとりである。

彼の教育論の特徴は「体育への〈美〉の観念の注入」、「アメリカ19世紀末から20世紀初頭のダンス教育の影響」、「学校体育と民衆体育の融和の構想」とまとめられている¹⁾がその教育論が教材にいかにも具現化されていたかについてはまだ明らかにされていない。

そこで本研究では、荒木の提示した体育ダンス教材の分析によって彼のダンス教育の実際を探り、日本のダンス教育史の中で荒木の果たした役割を考えていきたい。

2. 本研究の方法

本研究では、荒木直範の著作、即ち文献①～④に紹介された体育ダンスの基本ムーブメント(動作・全13種)と基本ステップ(歩法・全23種)及び体育ダンスの既成作品(全79作品)をとりあげ、教育内容の広がりと特性を明らかにしつつ、彼のダンス教育理念が教材にいかにも具現化されていたかについて考察していく。

文献①『体育ダンスと社交ダンス』日本評論社1923.

文献②『体育ダンス精義』都村有為堂1923.

文献③『体育ダンス教材集 第一編』都村有為堂1926.

文献④『体育ダンス教材集 第二編』都村有為堂1927.

3. 結果及び考察

〈基本のムーブメント(動作)及びステップ(歩法)〉

荒木は文献①及び文献②に基本のムーブメントと基本のステップを示している。解説文をもとに全ムーブメントとステップを「A歩く」「B踏む・接地する」「Cうつ」「Dすべる」「Eとぶ」「Fその他」の6種類に分類し、その結果を表1及び表2にまとめた。ステップについては松本・香山の先行研究²⁾をもとに明治期のダンス教育関係書にみられるステップと比較した結果、荒木の示したステップの3分の2以上は明治期にはみられなかったものであることがわかった。これは、彼の体育ダンスには新しい動きが多く取り入れられていたことを示している。

A～Fに分類されたものの個数をみると「Fその他」を除けば、ステップで「Cうつ」が0、「B踏む・接地する」が2と少なかった他はほぼ同数で特定の運動への偏りはみられず、多様な種類の運動が取り入れられていたといえる。

〈既成作品の分類と推移〉

体育ダンスの既成作品(全79作品)は演舞の内容や形態から、10のダンス領域に分類できた。その結果は表4に示す。執筆順を追って主なダンス領域の作品数をみていくとダンス領域の拡大と推移がわかる。この結果、荒木が最終的に到達したダンス領域はナチュラルダンスであったといえる。

* Shiho Kawakami (Graduate Division, Ochanomizu Women's University/Shimane University)

** Yasuko Kataoka (Ochanomizu Women's University)

これは当支部第17回大会発表後投稿の論文である。

表1 基本ムーブメント(動作)一覧(総数13)

文献①『体育ダンスと社交ダンス』1923. 文献②『体育ダンス精義』1923.

動作の種類	文献①pp.38-39より	文献②pp.33-35より	動作数
A. 歩く	ステップ step : 歩	ステップ step : 歩行	1
B. 踏む・接地する	タッチ touch : 触れる クロウズ close : 詰める	タッチ touch : 接着 クロウズ close : 詰寄	2
C. うつ	カット cut : 切る	カット cut : 切足	1
D. すべる	スライド slide : 滑る	スライド slide : 滑走	1
E. とぶ	ジャンプ jump : 跳ぶ リープ leap : 跳び越ゆ ホップ hop : 片足跳ぶ	ジャンプ jump : 跳躍 リープ leap : 跳越 ホップ hop : 単脚跳躍	3
F. その他	ツギザザー together : 揃える ホールド hold : 支持 キック kick : 蹴る スクワット squat : しゃがむ	ツギザザー together : 揃合 ホールド hold : 支持 キック kick : 蹴揚 スクワットsquat : 踵 toe point : 指示	5

表2 基本ステップ(歩法)一覧(総数23)

*は松本・香山『明治期の舞踏的遊戯-その精神と技術の様相-』舞踊学第4号1988. pp. 2-3にあげられたステップと共通であることを示す.

文献①『体育ダンスと社交ダンス』1923. 文献②『体育ダンス精義』1923. 文献①②の共通ステップの英文、訳語については文献①の欄のみに示す.

運動の種類	文献①pp.39-47より	文献②pp.35-43より	歩法数
A. 歩く	ロックステップ rock step : 揺躍歩 * バランスステップ barance step : 均衡歩 アンクルロック ankle rock : 踝揺	ロックステップ * バランスステップ アンクルロック ランニングステップ running step : 疾走歩 ダンシングステップ dancing step : 舞踊歩 = ワンステップ one step	5
B. 踏む・接地する	* チェンジステップ change step : 踏替歩 * トーアンドヒール toe and heel : 爪先と踵	* チェンジステップ * トーアンドヒール	2
C. うつ	該当なし	該当なし	0
D. すべる	* ファロウステップ fallow step : 後追歩 * ガロップステップ gallop step : 跑馳歩 * シャティッシュステップ schattishe step : シャティッシュ歩	* ファロウステップ * ガロップステップ * シャティッシュステップ スケーティングステップ skating step : 滑走歩 ワルツステップ waltz step : ワルツ歩	5
E. とぶ	* スキップステップ skip step : 単脚歩 * ポルカステップ polka step : ポルカ歩 * クロスレグジャンプ cross leg jump : 十字足跳 ウォークジャンプ walk jump : 歩行足跳	* スキップステップ * ポルカステップ * クロスレグジャンプ ウォークジャンプ	4
F. その他	ツイストステップ twist step : 振曲歩 * ツウィール twil : 回転歩 フロントアンドバックキック front and back kick : 前後蹴 ホッピングターン hopping turn : 片足廻り戻る	ツイストステップ * ツウィール フロントアンドバックキック ホッピングターン ロール roll : 円廻 バーンダンスステップ barn dance step : バーンダンス歩 ダールステップ dall step : 振揺歩	7

表3 著作にみられる体育ダンス教材の領域別件数

()内は割合, %

¹シンギングゲーム1作品を含む。²うち6作品はフォークダンスをもとにする。³創作1作品を含む。⁴及び⁵不明1作品を含む。

ダンス領域	文献①	文献②	文献③	文献④	総計
行進遊戯	3(10.7)	0	1(10.0)	0	4
フォークダンス	12(42.9) ¹	21(67.8) ³	4(40.0)	5(50.0)	42
キャラクターダンス	2(7.1) ²	4(12.9)	0	0	6
クログダンス	0	0	0	1(10.0)	1
キャリスゼニックダンス	7(25.0)	1(3.2)	0	0	8
アスレティックダンス	1(3.6)	1(3.2)	2(20.0)	0	4
社交ダンスの教材化	2(7.1)	0	0	0	2
エッセティックダンス	0	4(12.9)	1(10.0)	2(20.0)	7
ナチュラルダンス	0	0	2(20.0)	2(20.0)	4
不明	1(3.6)	0	0	0	1
総件数	28(100.0)	31(100.0)	10(100.0)	10(100.0)	79
領域数	7 ⁴	5	5	4	10 ⁵

表4 表現題材の分類

生活・行動	「遊び・スポーツ」…5作品
	「労働」…3作品
	「乗物・おもちゃ」…3作品
	合計…11作品
自然	「自然・動物・植物」…6作品
	「想像・物語」…2作品
	合計…8作品

《既成作品における表現題材》

体育ダンス全79作品中19が表現題材を明示されており、24.1%を占めていた。よって、荒木のダンス教育論においては「表現」という言葉がひとつの鍵となると思われる。表現題材の内容は「生活・行動」と「自然」の2つに大別できる。表4にその分類を示した。

荒木は、欧米には諸産業の労働の様子やその生産物についての知識を子どもに与え殖産興業の思想にふれさせるダンス教材があると紹介している³⁾。それらのいくつかは彼の著作にとりあげられ、「生活・行動」の中の「労働」「乗り物」に分類されている。

一方、荒木は「日本人には自然の美を賞賛した様な教材が向く」⁴⁾とも述べている。彼自身が創作した体育ダンス教材は6つ、そのうち表現題材が明示されたものは3つあり、それらはすべて「自然」に分類されている。

《ナチュラルダンス教材にみる荒木の表現と動きの特性-事例分析-》

荒木の創作したナチュラルダンス2作品を中心に、彼が示した「自然で自由な動きによる個性の発現」というナチュラルダンスの理念が個々の教材にいかにか具現化されていたのかをみると、隊形構成はいずれもフォークダンスと同様に終始円形で変化に乏しいこと、身体運動は全身の動きが少なくエッセティックダンスと同様に美的で技巧的な動きが目立つことから、彼の実際の教材は上記の理念を具現しきれなかったといえる。

また解説文から動きについての修飾語を抽出した結果、力と速さについては「弱い」「遅い」という特性が、形については「曲線的な」という特性が抽出された。これらの特性は「優しさ」「美しさ」「繊細さ」といった女性の美德と考えられている要素がダンスの動きに反映されたものだと考えられる。

4. 結論

《体育における美の導入と内容面での多彩な発展》

荒木はダンスにより心身両面の美的育成をはかった。これは女性の美德は「優しさ」「美しさ」「繊細さ」にあるとする伝統的女性観と合致する。彼の理念はこの点で明治期のダンス教育の理念を継承したところにあるといえる。そして彼のダンス教育が明治期のそれより発展したといえるのは、欧米からの新しいダンス教育理念と教材を移入する中で動きと領域との両面において教育内容を多彩に発展させたことにある。この教育内容の多様化は、彼が自らのダンス教育を「体育ダンス」と命名し、「遊戯」の一領域ではないダンスとしての独自性を主張した理由の1つともなった。

《身体修練のダンス教育から表現的ダンス教育への模索》

荒木はダンス教育の研究を深め、様々な形態のダンスによる教材の多様化をはかり、最終的にはナチュラルダンスに到達した。従来のダンス教育の目的は主として身体修練にあったといえるが、ナチュラルダンスは自然運動による表現と自由な個性の発現を目指していた。荒木はこの点に共感を示している。しかし、自作のナチュラルダンス作品の分析から、隊形構成と動きにおけるフォークダンスとエッセティックダンスの影響が指摘され、彼は理念面では表現的ダンスへの転換を感じとりその実践を模索していたが実際には従来のダンス教材の形態を脱しきれなかったのであろうという結論に達した。

《ダンス教育史の中で荒木直範の果たした役割》

以上のことから、理念的には「遊戯」からの「ダンス」としての独立をめざし、「身体修練」から「表現」へと転換しつつあった大正～昭和前期のダンス教育の歴史的潮流の中で、荒木直範は欧米からのダンス教育理念と教材の移入をとおして教育内容を多彩に発展させ、ダンス教育の理念的・内容的転換の端緒を開き、自らも作品を創作し発表するなどダンス教育の振興に貢献した人物であったことがわかった。彼は、研究会や講習会などの活動を通して体育ダンスの研究と実践の普及に努めてもいる。

荒木直範は、初めて体育ダンスの講習会を催した大正9年から昭和2年に早世するまでの7年間、体育ダンス研究の理論と実践における先駆者的役割を果たした人物であったといえよう。

- 1 川上志保『荒木直範(1894-1927)のダンス教育論』, 日本体育学会第40回大会発表資料pp. 7-8 参照.
- 2 松本千代栄・香山知子「明治期の舞踏的遊戯-その精神と技術の様相-」舞踊学第4号, 1981. pp. 2-3 参照.
- 3 文献④pp. 15-16 参照.
- 4 文献④pp. 17より引用.

主要参考文献一覧

- 1) 荒木直範『体育ダンスと社交ダンス』第5版, 日本評論社, 1923. pp. 33-47, pp. 58-214.
- 2) 荒木直範『体育ダンス精義』第2版, 都村有為堂, 1923. pp. 33-43, pp. 48-213.
- 3) 荒木直範『体育ダンス教材集 第1編』初版, 都村有為堂, 1926. pp. 1-14, pp. 21-131.
- 4) 荒木直範『体育ダンス教材集 第2編』初版, 都村有為堂, 1927. pp. 1-30, pp. 36-161.
- 5) 荒木直範「体育ダンス概論」『アルス運動学講座』第3巻, pp. 2-20, 1927.
- 6) 川上志保「荒木直範(1894-1927)のダンス教育論」, 日本体育学会第40回大会発表資料, 1989. pp. 7-8.
- 7) 真行寺明生・吉原藤助『近代日本体育史』, 第2版, 浅見文林堂, 1927. pp. 673-674.
- 8) 古家智美「女子体育の歴史的研究-荒木直範の体育ダンス論-」東京女子体育大学卒業論文, 1967. pp. 6-13.
- 9) 松本千代栄・香山知子「明治期の舞踏的遊戯-その精神と技術の様相-」, 舞踊学第4号, 1981. pp. 1-9.
- 10) 松本千代栄『ダンス表現学習指導全書 表現理論と具体的展開』, 第3版, 大修館書店, 1980. pp. 53-60.